

## 令和4年 火災・救急概況（速報）

～令和4年1月1日から令和4年12月31日まで～

- ① 出火原因は、昭和60年から連続第1位の「放火(疑いを含む)」に代わり、「たばこ」が最多**
- 全火災件数は638件で、過去10年では令和2年の624件に次ぐ少ない件数となった一方、全火災及び住宅火災における電気火災の件数と割合が過去最多となりました。
  - 全火災の死者数は11人（放火自殺を除く）となり、過去10年で最も少なかったものの、全員が高齢者の方でした。
- ② 救急出場件数は24万件を超え、搬送人員とともに過去最多を記録**
- 救急出場件数は244,086件で、前年と比べて39,659件（19.4%）増加し、これまでに最も多かった令和元年を31,691件上回りました。
  - 搬送人員も192,173人で、前年と比べて21,152人（12.4%）増加し、これまでに最も多かった令和元年を9,527人上回りました。搬送人員の割合を年代別にみると高齢者が56.4%、傷病程度別にみると中等症以上が51.7%となりました。

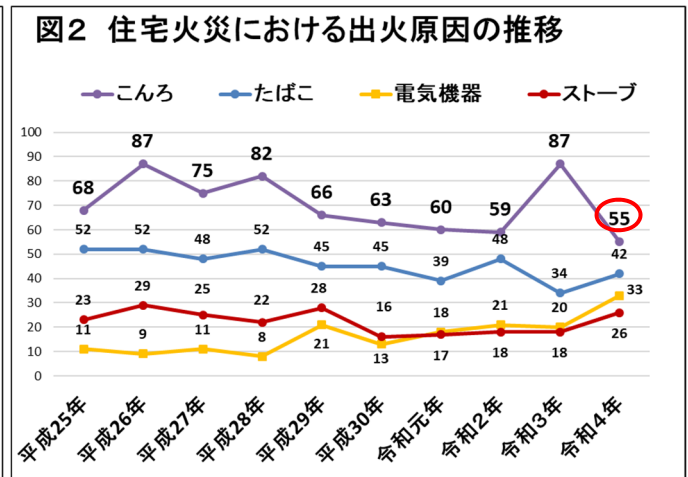
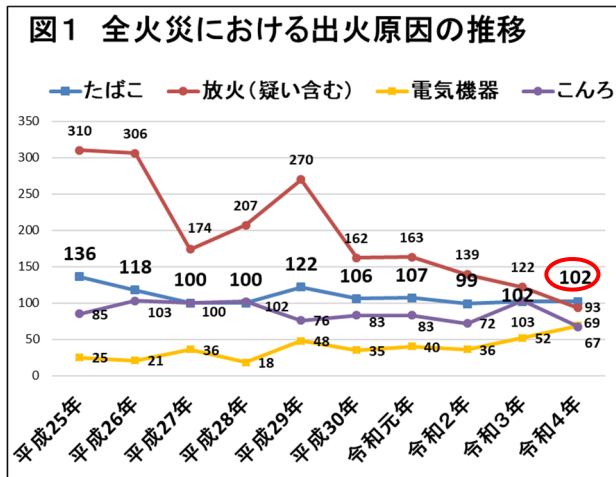
### 1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照）

#### (1) 火災件数

全火災件数は638件（前年比60件減）で、過去10年では令和2年の624件に次ぐ少ない件数となりました。このうち、住宅火災件数は268件（前年比23件減）で、年ごとに変動はあるものの、全火災件数、住宅火災件数ともに減少傾向が続いています。

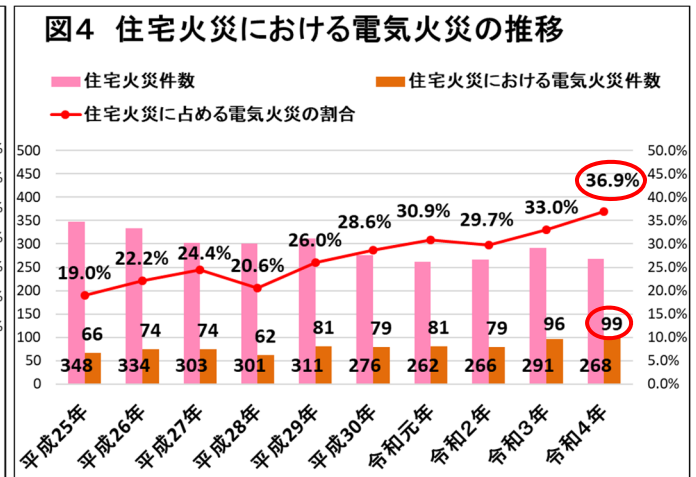
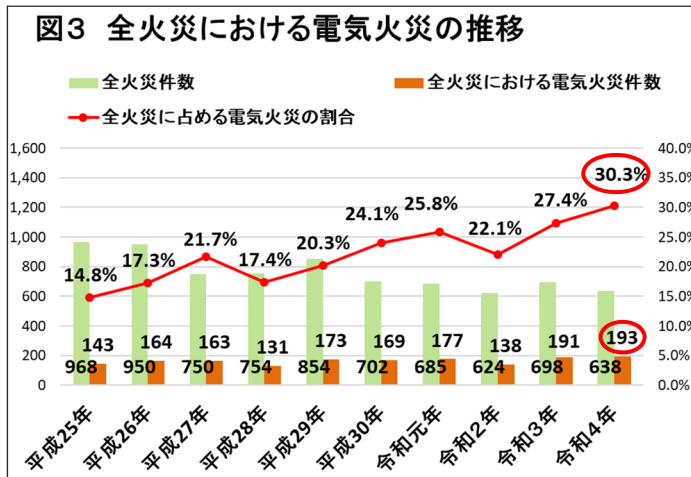
#### (2) 主な出火原因【図1】【図2】

- 全火災の出火原因第1位は、昭和60年から連続して「放火(疑いを含む)」となっていました。令和4年は「たばこ」102件となり、次いで「放火(疑いを含む)」93件、「電気機器」69件の順となっています。
- 住宅火災の出火原因第1位は、前年から減少したものの、例年どおり「こんろ」55件で、次いで「たばこ」42件、「電気機器」33件の順となっています。



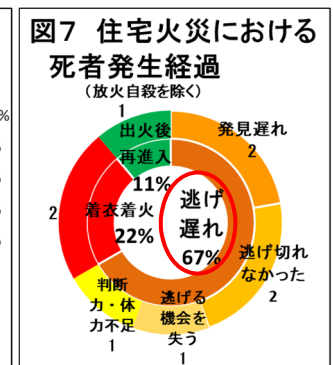
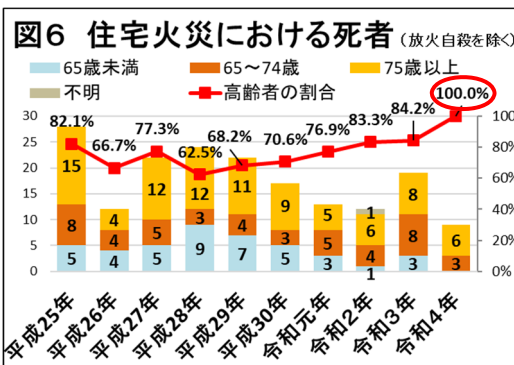
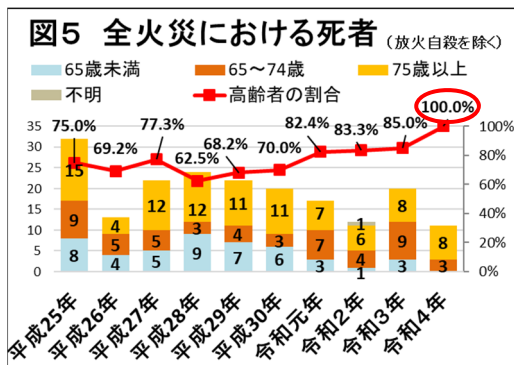
### (3) 電気火災【図3】【図4】

- ・ 電気をエネルギーとする機器や用品、設備などが発火源となった「電気火災」は、全火災で193件、このうち住宅火災で99件発生しており、電気火災の件数及び割合はいずれも過去最多となりました。
- ・ なお、リチウムイオンバッテリーに起因した火災は、全火災で34件、住宅火災で15件発生しており、近年、増加傾向が顕著となっています。



### (4) 火災による死者【図5】【図6】【図7】

- ・ 放火自殺を除く全火災の死者は11人で、全員が65歳以上の高齢者の方でした。
- ・ このうち、住宅火災の死者は9人で、6人が逃げ遅れ、2人が着衣着火、1人が避難後に再び自宅に戻り、お亡くなりになっています。



#### 住宅用火災警報器があなたと家族の命を守ります！

住宅火災における死者のうち、7人が自宅で一人のときに亡くなっています。特に高齢者の方は避難に時間を要しますので、火災を早期発見するためにも住宅用火災警報器を適切に設置し維持管理しておくことが重要です。



10年以上前に設置された警報器は、電池切れ等により火災時に正常に作動しないことが危惧されます。

いざという時に正常に作動するように日頃から点検を行い、異常があった警報器は新しいものに取り換えましょう。

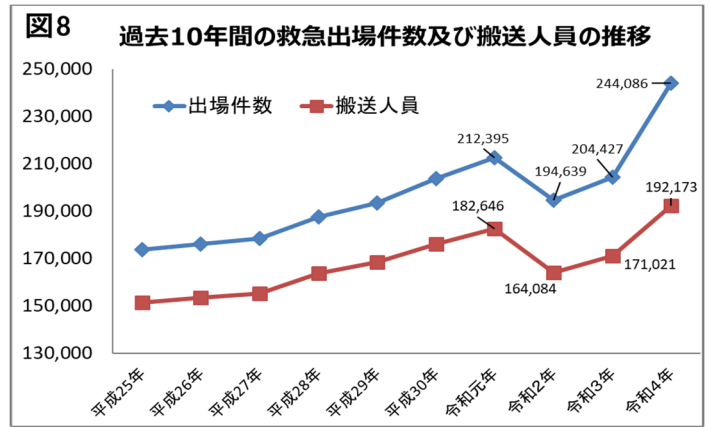
ご不明な点は、最寄りの消防署にご相談ください。



## 2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

### (1) 救急出場件数及び搬送人員【図8】

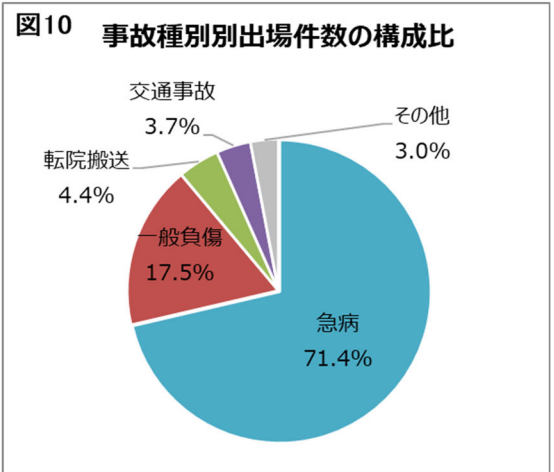
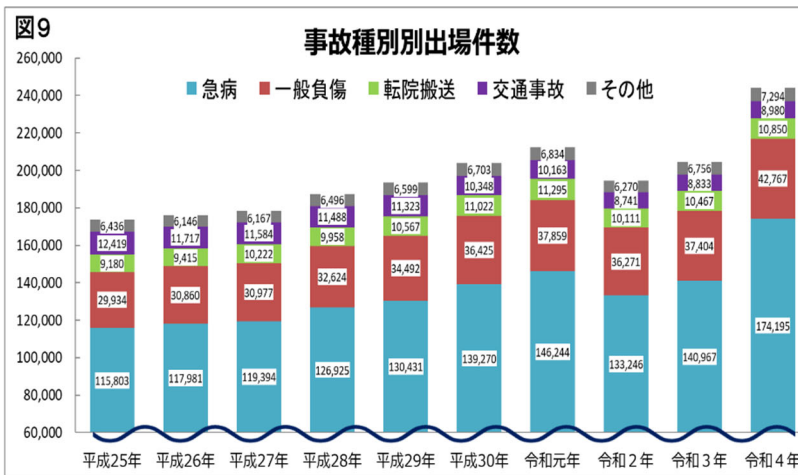
- 救急出場件数は244,086件（前年比39,659件増）で、過去最多を記録しました。
- 搬送人員は192,173人（同21,152人増）で、過去最多を記録しました。
- 1日あたりの平均救急出場件数は669件で、前年の560件と比べて109件増加しました。
- 2分9秒に1回救急車が出場していることとなります（前年は2分34秒に1回）。



### (2) 事故種別別出場件数【図9】【図10】

事故種別ごとの救急出場件数は、「急病」174,195件（前年比33,228件増）、「一般負傷※」42,767件（同5,363件増）、「転院搬送」10,850件（同383件増）、「交通事故」8,980件（同147件増）の順となり、全救急出場件数のうち、急病が71.4%、一般負傷が17.5%となりました。

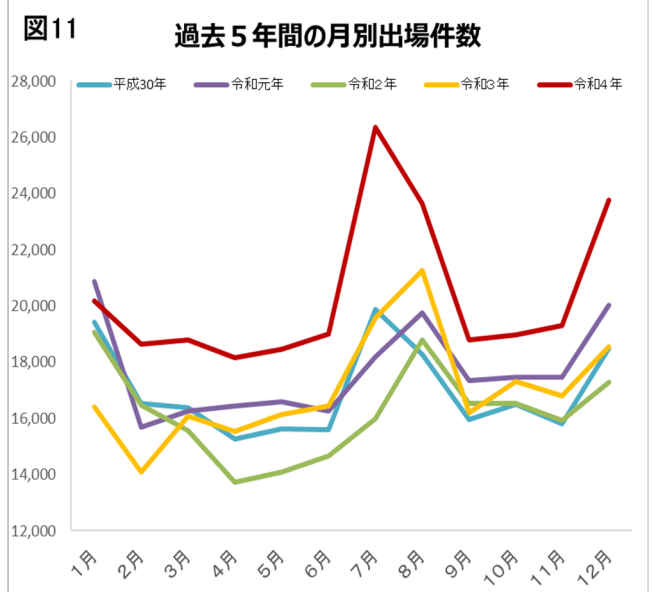
※ 一般負傷とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、住宅内での転倒・転落、やけど、熱中症等が該当します。



### (3) 月別出場件数【図11】

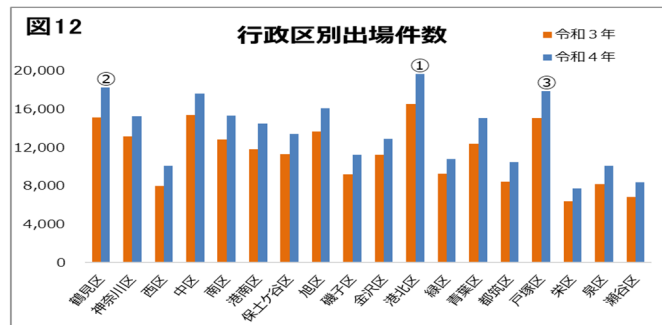
- 前年と比べて全ての月で増加しました。また、これまでに最も多かった令和元年と比べると、1月以外の全ての月で上回りました。
- 7月の救急出場件数は26,350件（前年同月比6,783件増）で、新型コロナウイルス感染症患者の急増や熱中症の影響もあり、過去最多となりました。
- 7月の1日あたりの平均救急出場件数は850件で、前年同月の631件と比べて219件増加しました。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
令和4年	20,167	18,627	18,794	18,173	18,475	18,991
令和3年	16,422	14,099	16,086	15,551	16,140	16,447
増減比	22.8%	32.1%	16.8%	16.9%	14.5%	15.5%
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和4年	26,350	23,658	18,786	18,977	19,317	23,771
令和3年	19,567	21,251	16,201	17,306	16,792	18,565
増減比	34.7%	11.3%	16.0%	9.7%	15.0%	28.0%



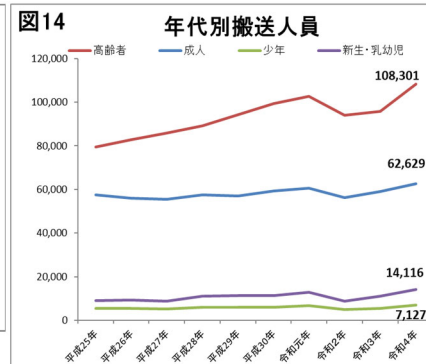
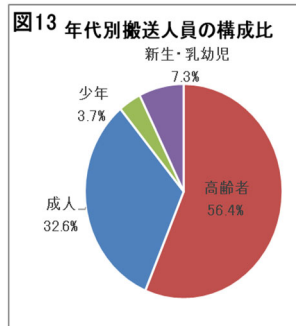
(4) 行政区別出場件数【図12】

- 前年と比べて全ての行政区で増加しました。
- 行政区別の救急出場件数は、港北区 (19,614 件)、鶴見区 (18,193 件)、戸塚区 (17,855 件) の順となりました。



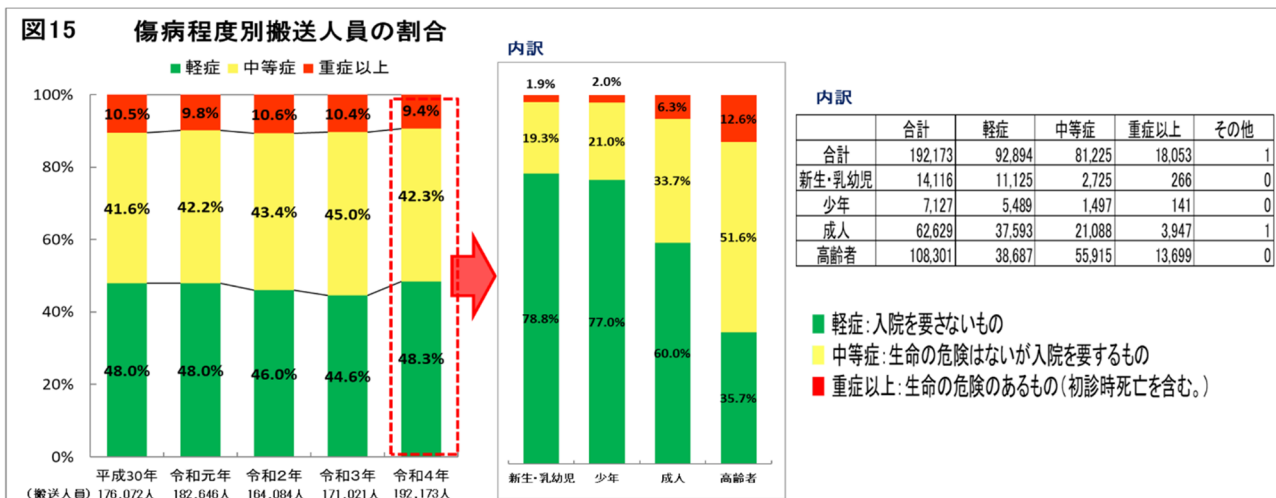
(5) 年代別搬送人員【図13】【図14】

- 前年と比べて全ての年代で増加しました。
- 年代別の搬送人員は、65歳以上の「高齢者」が108,301人 (56.4%)、18歳以上65歳未満の「成人」が62,629人 (32.6%)、7歳未満の「新生・乳幼児」が14,116人 (7.3%)、7歳以上18歳未満の「少年」が7,127人 (3.7%) の順となりました。



(6) 傷病程度別搬送人員 (医療機関初診時)【図15】

傷病程度別の搬送人員は、軽症が92,894人 (前年比16,539人増)、中等症が81,225人 (同4,335人増)、重症以上が18,053人 (同284人増) の順となり、「新生・乳幼児」及び「少年」では7割以上が軽症であるのに対して、「高齢者」では6割以上が入院を必要とする中等症及び重症以上となりました。



※ グラフ等の割合は小数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100.0%にならない場合があります。

市内で救急要請が多発する日には、救急車の到着まで時間がかかる場合もあります。救急車は、けがや病気などで、緊急に医療機関での受診が必要な方を搬送するためのものです。救急車の適正利用にご理解とご協力をお願いします。

**Point** 急な病気やけがで迷ったら・・・

- 横浜市救急受診ガイド  
パソコンやスマートフォンから緊急性や受診の必要性を確認できます。
- 横浜市救急相談センター (#7119 又は 045-232-7119)  
「救急受診できる病院・診療所」、「救急車を呼ぶべきか」などを電話相談できます。

<横浜市救急受診ガイド>

横浜市消防局マスコットキャラクター ハマくん



お問合せ先

(火災に関すること) 消防局予防課長 宇多 範泰 Tel 045-334-6601  
(救急に関すること) 消防局救急課長 石黒 靖雄 Tel 045-334-6771

# 火災概況〈速報〉

## 1 火災種別・損害状況

単位：件

年別		令和4年	令和3年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成24年～令和3年) (C)	(A) - (C)
火災種別	全火災	638	698	△60	789	△151
	建物火災	415	463	△48	468	△53
	住宅火災	268	291	△23	303	△35
	林野火災	-	-	-	-	-
	車両火災	67	56	11	66	1
	船舶火災	-	2	△2	2	△2
	航空機火災	-	-	-	-	-
	その他の火災	156	177	△21	253	△97
損害状況	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	4,724	8,795	△4,071	6,848	△2,124
	死者(人)	14	21	△7	24	△10
	放火自殺者	3	1	2	4	△1
	負傷者(人)	88	110	△22	126	△38
	住宅火災	3,483	4,060	△577	4,154	△671
	死者(人)	12	19	△7	20	△8
	放火自殺者	3	-	3	2	1
	負傷者(人)	73	82	△9	94	△21

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数 また、放火自殺者数は死者数の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 2 主な出火原因

単位：件

年別		令和4年	令和3年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成24年～令和3年) (C)	(A) - (C)
全火災	たばこ	102	102	-	113	△11
	放火(疑いを含む)	93	122	△29	215	△122
	電気機器	69 (69)	52 (52)	17 (17)	34 (34)	35 (35)
	こんろ	67 (4)	103 (13)	△36 (△9)	91 (8)	△24 (△4)
	配線器具	31 (31)	25 (25)	6 (6)	26 (26)	5 (5)
	上記以外の出火原因	276 (89)	294 (101)	△18 (△12)	310 (90)	△34 (△1)
	計	638 (193)	698 (191)	△60 (2)	789 (159)	△151 (34)
住宅火災	こんろ	55 (4)	87 (12)	△32 (△8)	73 (7)	△18 (△3)
	たばこ	42	34	8	49	△7
	電気機器	33 (33)	20 (20)	13 (13)	14 (14)	19 (19)
	ストーブ	26 (22)	18 (15)	8 (7)	22 (15)	4 (7)
	配線器具	21 (21)	21 (21)	-	17 (17)	4 (4)
	上記以外の出火原因	91 (19)	111 (28)	△20 (△9)	129 (22)	△38 (△3)
	計	268 (99)	291 (96)	△23 (3)	303 (76)	△35 (23)

備考 ( )内は電気起因する火災で各出火原因の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 3 行政区別火災発生状況

単位：件

年別		令和4年	令和3年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成24年～令和3年) (C)	(A) - (C)
行政区	鶴見区	52	54	△2	75	△23
	神奈川区	41	37	4	50	△9
	西区	34	35	△1	35	△1
	中区	53	84	△31	71	△18
	南区	28	42	△14	47	△19
	港南区	38	46	△8	45	△7
	保土ヶ谷区	36	35	1	36	-
	旭区	40	41	△1	49	△9
	磯子区	23	31	△8	29	△6
	金沢区	21	36	△15	37	△16
	港北区	61	52	9	67	△6
	緑区	32	25	7	34	△2
	青葉区	32	40	△8	43	△11
	都筑区	28	34	△6	39	△11
	戸塚区	63	37	26	50	13
	栄区	20	16	4	20	-
	泉区	21	30	△9	33	△12
	瀬谷区	15	23	△8	30	△15
合計	638	698	△60	789	△151	

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 救 急 概 況 &lt; 速 報 &gt;

単位：件

区 分\年 別	令和 4 年		令和 3 年		増△減	増減比
	件数	構成比	件数	構成比		
出場件数	244,086		204,427		39,659	19.4%
1日当たりの出場件数	669		560		109	
出場率（何分何秒に1回）	2分9秒に1回		2分34秒に1回		—	
市民の救急車利用状況	15人に1人が利用		18人に1人が利用		—	

※令和4年の人口については、令和4年12月1日推計値（政策局総務部統計情報課資料）による。

## 事故種別別出場件数

単位：件

事故種別	令和 4 年	構成比	令和 3 年	構成比	増△減	増減比
急 病	174,195	71.4%	140,967	69.0%	33,228	23.6%
一 般 負 傷	42,767	17.5%	37,404	18.3%	5,363	14.3%
転院搬送	10,850	4.4%	10,467	5.1%	383	3.7%
交通事故	8,980	3.7%	8,833	4.3%	147	1.7%
そ の 他	7,294	3.0%	6,756	3.3%	538	8.0%
合計	244,086	100.0%	204,427	100.0%	39,659	19.4%

※その他とは、加害や自損行為などを含む。

## 傷病程度別搬送人員

単位：人

傷病程度	令和 4 年	構成比	令和 3 年	構成比	増△減	増減比
軽 症	92,894	48.3%	76,355	44.6%	16,539	21.7%
中 等 症	81,225	42.3%	76,890	45.0%	4,335	5.6%
重 症 以 上	18,053	9.4%	17,769	10.4%	284	1.6%
そ の 他	1	0.0%	7	0.0%	△ 6	△85.7%
合計	192,173	100.0%	171,021	100.0%	21,152	12.4%

※その他とは、医療機関に搬送はしたが、受診拒否など傷病程度の示しがないもの。

## 年代別搬送人員

単位：人

傷病者年代区分	令和 4 年	構成比	令和 3 年	構成比	増△減	増減比
新生児・乳幼児（0歳以上7歳未満）	14,116	7.3%	10,984	6.4%	3,132	28.5%
少年（7歳以上18歳未満）	7,127	3.7%	5,383	3.1%	1,744	32.4%
成人（18歳以上65歳未満）	62,629	32.6%	58,953	34.5%	3,676	6.2%
高齢者（65歳以上）	108,301	56.4%	95,701	56.0%	12,600	13.2%
合計	192,173	100.0%	171,021	100.0%	21,152	12.4%

## 行政区別救急出場件数

単位：件

行政区	令和 4 年	令和 3 年	増減比	行政区	令和 4 年	令和 3 年	増減比
鶴見	18,193	15,124	20.3%	港北	19,614	16,498	18.9%
神奈川	15,247	13,113	16.3%	緑	10,744	9,224	16.5%
西	10,039	7,984	25.7%	青葉	15,003	12,329	21.7%
中	17,591	15,374	14.4%	都筑	10,453	8,432	24.0%
南	15,269	12,799	19.3%	戸塚	17,855	15,055	18.6%
港南	14,484	11,806	22.7%	栄	7,698	6,358	21.1%
保土ヶ谷	13,354	11,306	18.1%	泉	10,042	8,147	23.3%
旭	16,039	13,660	17.4%	瀬谷	8,378	6,811	23.0%
磯子	11,184	9,173	21.9%	市外	50	47	
金沢	12,849	11,187	14.9%				

※令和4年中の出場件数の内訳及び搬送人員の数値は、速報値であり、確定値ではありません。

※構成比率は少数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100.0%にならない場合があります。